

# はあとメール 第17号

発行人 〒606-8405  
京都市左京区浄  
土寺上南田町26  
☎ 075-761-2109  
住田正則

みなさん、新年あけましておめでとうございます。はあとメール代表の住田正則です。  
今年も、はあとメールをどうぞよろしく願いいたします～

早いもので、私たちがはあとメールの活動を開始してから、二度目のお正月を迎えることができました。決して順風満帆とは言えず、盛大であるとも言えない、ゆっくりと小さな歩みではありますが、それでも数十名のはあと会員のみなさんと出会うことができ、今も少しずつその交流の輪を広げ、信頼の根を太くし続けています。これもひとえに、はあとメールを支えて



くださる皆さまのおかげです。ここにスタッフを代表して、私から感謝の辞を申し上げます。本当にありがとうございます！

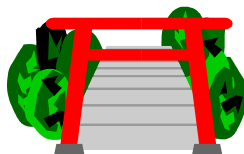
はあとメールは、これからいよいよセカンドステージに入ります。これまでの活動を継承しつつ、これまでとは一味違った活動にも取り組んでいく予定です。詳細は、次回お伝えできると思います。どうぞご期待ください！



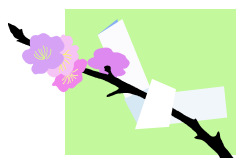
～文通で、あなたのくらしにうるおいと安心を～

「市民のみなさんと法律家（専門家）の双方向の交流を、  
文通によって実現していきます」

さてみなさんは、このたびのお正月をどのように過ごされましたでしょうか？ とはいえ、この「はあとメール第17号」がみなさんのお手元に届くのは1月下旬ですから、これはいささか時季外れな話題なのかも知れませんが・・・。



私はというと、ふと思立って（お酒の飲みすぎで？）、友人と神社のおみくじを引いて回りました。回ったのは、八坂神社、縁切り神社として有名な安井金毘羅宮、堀川恵比須、錦天満宮です。四社回って、引いたおみくじはいずれも“吉”という、また何とも中途半端な結果でした。笑いをとるためには、“凶”のひとつも引けたらよかったのですが・・・（えっ？ おみくじはそんなことのためにあるのではないって？ ごもっともです）



それにしても、どの神社もお参りの人々でごった返していました。あ、堀川恵比須さんだけは、その後のメインイベント「十日夷」があるせいなのか、少し控え目でしたけど。

おみくじ売場も大盛況！ いったいいくらぐらいの売上になるものかと、友人と二人で要らぬ勘定までしてしまいました。

年の初めにあたり、今年こそは幸多かれ、と願う人々の思い — 恐らく、何世代も前から営々と受け継がれてきた切なる思いをひしひしと実感した、そんなお正月でした。

ちなみに、神社めぐりから戻った私と友人は、友人宅で改めて盃を重ね、痛飲いたしました。いやはや、バチが当たらなければいいけれど・・・



「はあとメール」の具体的な活動方法・活動内容について、改めてご説明いたします。

基本的に、毎月1回（15日前後）に、法律ひとくちメモやくらしのお役立ち情報などを盛り込んだ「はあとメール」を、本活動の趣旨にご賛同いただきました方々（「はあと会員」と呼びます）へ向けて郵送いたします。会員の方々は、スタッフへ向けてご質問・ご相談などのおたよりを送ることができ、それに対してのお返事をスタッフが書く、という流れで、双方の心のふれあい・意思疎通をはかります。

また、会員の方々は、スタッフが開催する無料相談会やセミナーに優先的にご参加いただくことができ、必要に応じて遺言・相続などの業務依頼をスタッフに発注することができます。すでに心安くしているスタッフへの依頼ですから、その安心感は格別なものになるのではないかと思います。

☆「はあと会員」会費 → 無料です！！

現在、はあとメールは、京都新聞社会福祉事業団さまの助成金を受けて「はあとメール」を発行しています。

このため、少なくともしばらくは会費をご負担いただくことなく、お申し込みいただくだけで、すぐに「はあとメール」をお送りいたします。

さあ皆さん、ぜひぜひ「はあと会員」の輪の中にお入りください～

☆会員へのサービス内容

「はあとメール」発送、質問・お便りへのお返事、相談会・セミナーへの優先ご招待、業務お引き受け（別途有料）・・・等



（住田 正則）

あなたのご参加を、心よりお待ち申し上げます

あなたのくらしに、うるおいと安心を

# はあとメール

無

こんにちは、はあとメールです。

◇◇◇当団体の活動の趣旨◇◇◇

私たちは法律家として、定期便「はあとメール」を送付したり、無料相談会を開催することを通して、皆さまが日常生活において困ったときに、気軽に相談できる相手になりたいと思っています。

そして、さらに、心温まるサービス（Heartwarming Service）を提供できるようにして

行政書士、社会保険労務士らが

遺言・相続、離婚、老い支度、年金、

その他困りごと相談に無料で応じます。

日時 平成22年 2月21日（日）

午後1時から午後4時まで

会場 「ひと・まち交流館 京都」3階ミーティングルーム

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83の1

（河原町五条下る東側）TEL：075-354-8711

次回の無料相談会は 3月21日（日）午後1時～4時を予定しております。

☆ 詳しくはお問い合わせください ☆

※ 予約された方が優先となります。

電話・FAX 075-761-2109

〒606-8405 京都市左京区浄土寺上南田町26

はあとメール 住田正則 まで

e-mail:heartmail2008@gmail.com

みなさん、こんにちは。京の菜時記を書かせていただいております  
橋本将詞（社会保険労務士）です。

毎回、京都でとれる旬の野菜を紹介しようと始めた「京の菜時記」、  
今回で14回目となりました。今年最初に紹介します野菜は「京にんじん」です。

# 京の菜時記

実は「金時人参」のことなのですが、京都のイメージが強いせいなのか「京にんじん」といわれています。とはいっても京の伝統野菜には含まれておらず、京都での生産量は年々減少しており、全国的には香川県がもっとも大きな産地です。東洋系で唯一残る品種で、オレンジ色の西洋系とはまったく違う野菜のように思えます。真紅に近い赤色はリコピンで栄養価も相当なものです。



京都で作られている金時人参ですが、市場流通量の9割以上が上鳥羽で作られています。鴨川と桂川に挟まれた上鳥羽は古くから洪水を繰り返し非常に肥えた土壌で、砂地のように水はけのよくない土の土壌が成長を妨げるのか、太短くゴツゴツとした人参になるのですが、その色は異常というほどの赤さで、その香りも独特な人参らしいものです。切ってみると中まで赤く、味も甘い。

色鮮やかな赤色は京料理に栄え、特にお正月のおめでたいお料理には欠かすことができないものです。

ですが、ここ10年で生産量は半減以上。7月に播種するため、梅雨の大雨と重なってしまうと蒔いた種が流れてしまい生えない・・・ということも多々あります。収穫まで半年を要する上、出荷するときには一本一本丁寧に面取り（ゴツゴツした部分をそぎ落とす作業）をしなければならず、非常に手間を要します。その反面、金時人参の流通量自体は増えているために価格も安値が数年続きました。高齢化も拍車をかけて生産量は減り続けています。

でも、料理店等の評価は相当高く、一度使えば他の人参が使えなくなるほど香り豊かで味わい深い京にんじんです。

よく「京都のモンは人参の葉を食べる」といわれますが、それは9月ぐらいに金時人参の間引き菜を食べるもの。間引き菜はおひたしや天ぷらにするとシャキシャキとした食感と、ほのかなにんじんの香りが独特なものです。

食べていただくことで、京都の人参は守られます。ぜひ、お試しを・・・。